

仕事の名人

村にはどの時代でも、その人の右に出るものがない仕事があったものである。冠婚葬祭においても火葬は誰、熱おくり太鼓は誰、ちよつとした土木工事は誰とおのずと決まっていたものがあつた。平成の世になつても農作業の田植機やトラクターやコンバインの扱いに秀でる村人が居るものだ。また「他国ごぼ様に地侍」や「地の者」という言葉があるように、村内には格式があり他村から婿に入った者は、いくら腕が良くても簡単に直ぐには認められない因習も少なからずあつたものだ。

棟包み

金戸村だけでなくこの地方一帯の家の屋根は茅葺きがほとんどであつた。夏は涼しく、冬は暖かい長所もあつたが、毎年の冬をむかえての「棟包み」の仕事が欠かせないものであつた。棟包みは茅の補完と縄の取り替えであるが、この屋根天びんの棟仕事は誰でも出来るものでなかつた。

金戸で棟包みの高所作業が出来る人は、梅本又三郎と源元光夫の両名ぐらいであり、毎年十一月に入ると両氏の順番取りに目の色を変えたものである。



東頭久光の棟包み

馬使い

今でも春の荒起こしでのトラクター名人がいるように、田畑に昭和三十年代に耕運機が入るまでは、どの農家も牛や馬の力を借りていたが、中でも田植前の荒起こしから、代掻きまで多くの農家が馬の扱いに手を焼き難儀したものだ。

村では数頭の共同飼育の牛馬がいたが、農繁期には東北・新潟などからの借り馬が多かつたようである。問題はこの借り馬をどう使うかであつた。借り馬には暴れ馬やずるい馬が多かつた。人間でも同じであるが無くて七癖のように癖のない馬は居なかつた。特に馬は使い手を見る目が鋭く厄介であつた。笑い話に馬は一〇時の一休みを

目で合図を送り、休んでエサ（飼葉）を与えないといっすんかつすん動こうとしなかつたという。金戸で馬使いの名人と云えば品川正吉と中仙道高光の兩人だつたようである。この二人が手綱を取れば、どの馬も素直に働いてくれた云うから不思議である。馬は馬力があり引つ張られると隣の田んぼまで駆けあがっていくので、馬使いに慣れない者や年寄りには牛を使つたという話が残っている。



馬使いの競技会か

寄附芳名録

寄付の篤志は何時の時代も善事なるものであるが、何人も社会公共のために財貨を惜しま無い者は多くない。然るに金戸在住者並びに出身者に、これらの人があるは誠に郷土の誇りとすべきものであり、芳名挙げて長く其の徳行を記録にとどめたい。

盛田和三郎・志の夫婦

盛田三四郎の二男が明治十六年に別家した和三郎は、爪の先に火を灯すがごとく質素な生活で財をきずいたが篤志の念が強かった。おりしも大正三年に神明社本殿新築後、境内施設が徐々に整いたるが、社標が未だなきを憂いに思い寄進を思い立った。村人も和三郎の祈願に答えるべく村中で協力したのであった。専徳寺前まで馬車で運び、後は狭い曲がりくねった道を村人全員の「ころ曳き」で運んだと語り継がれている。

昭和十一年当時に御影石にて高四尺・縦横四七寸の社標は南砺にはなく随一の規模を誇ったものであった。

また和三郎亡き後の妻志のも夫和三郎におとらず報謝の念が篤かった。昭和十年十月に御真影奉安殿設置の際に

村長田嶋与三郎より勸進の依頼を受けると、野口出身で東京で成功している山本八百治郎と金八百円を寄附し合計千六百円で御影石の奉安殿の建設に寄与した。同年十一月に三日に厳かなる御真影奉遷式を行い、御真影が此の殿宇の内に奉置せられた。

昭和二十年の敗戦により取り壊されたが、その跡の聖地の放置され荒れるのを憂い、昭和二十四年の小学校創立三〇周年記念事業として、此の地に築山を造営して情操教育の一助とせんと土盛を築いた。

和三郎は昭和8年12月10日70歳で没す。妻志のは昭和28年3月10日77歳で没す。

盛田太吉郎

豪農盛田平右衛門の養子として入籍した中川甚兵衛三男太吉郎（弘化3年9月15日生）はよく家業を継ぎ地域に貢献した。南山田小学校に校門がなかったため、城端では初めての御影石柱（33寸角・高260寸）で木製扉の校門を大正十年十二月に野口田嶋與三郎と二人で寄進する。現在も「南山田ふれあい広場」に残されている。

片桐金藏・忠信兄弟

昭和十年六月金戸出身で大阪在の盛田耕徳と塔尾出身の加門太藏が二宮尊徳銅像を寄進した。しかし昭和一六年の金属回収により供出されたが、昭和二四年に盛田耕徳と加門太藏の甥に当たる片桐金藏と忠信の兄弟が前者の意志を継ぎ、小学校創立三〇周年記念事業として第二の二宮尊徳銅像を寄進した。兄弟は父母に孝し同胞相親しみ、恩義に対する感謝の念強く、幼より前記の叔父達の多大なる恩に浴したることを忘れず、常に報謝の誠を致さんと思ひし折柄、二宮尊徳銅像の台座のみ残れることを遺憾に思い、叔父達の恩義に報いんとし再建したという。金藏は戦後の地方自治法改正による新しい議会制度により昭和二二年から二七年まで村議を務めた。昭和四三年〜四四年に区長を務める

自治功勞等表彰者

- 中川尚三 昭和7年叙従七位
- 朝日八左衛門 昭和57年教育
- 森井信一 昭和60年産業経済
- 松田孝道 平成2年教育
- 松田昭夫 平成6年産業経済
- 竹山武司 平成11年自治振興